

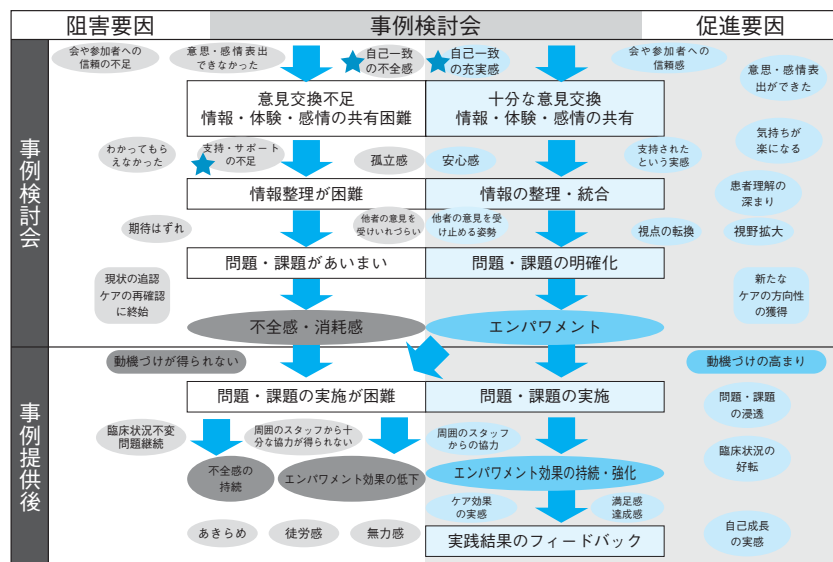


図1 エンパワメントを阻害・促進する要因

2005年からは、正式に研究活動の一環としてレビューを位置づけ、検討会の振り返りと事例提供者のフォローアップを開始した。振り返りの内容は、①事例検討会の流れや特徴、②事例提供者の気持ちが動いた発言、③多くの参加者が強く印象づけられた発言・場面の3つのポイントに焦点化されており、検討会終了後に参加者に書いてもらったアンケートの回答なども参考にし、事例の4局面と役割類型、グループダイナミクスについて吟味していく。レビュー参加者は、提供者・研究担当者・教員などの限られた少数メンバーを基本としているが、勉強のため参加したいという希望者がいれば、受け入れている。

開催側として意識していることとしては、まず事例提供者にクールダウンしてもらえるような環境を提供することである。提供者は会の中では緊張でいっぱいなのことも多いし、参加者とやりとりを2時間もした後なので、さ

らに1時間もレビューで同じような状況に置かれたらたまらないし、疲れるので、まずは、お弁当を提供して、ゆっくり食べてもらいながら、少し気持ちを落ち着けてもらう。振り返りは、ほかのメンバーが中心に行い、提供者がひと段落ついたところで、提供者がああ場では言えなかったことや気がかりなこと、わからないことなどが残っていないかを確かめ、もしあるならばそれを話してもらい、できるだけその日のうちになんらかの解決をはかるように心がけている。その理由は、提供者が気がかりをそのまま自分の中にため込んで帰ると、疑問が不信にかわり、後々までそのことに悩まされつづけるといった場合もあるからである。そのため、定期的なサポートシステムを提供し、事例検討会での体験が自己理解と成長の機会につながるように工夫している。セーフティネット2つ目は、1か月フォローである。翌月の事例検討会終了後に、その後の報告を提供者自身からしてもら